



～認知症の人や
家族の安心のために～

認知症は特別な人に起こる他人事ではなく、誰にでも起こりうる脳の病気です。65歳以上の高齢者の4人に1人は認知症またはその予備群といわれています。認知症になると記憶力が低下したり、今まで出来ていたことができなくなったり、仕事や生活に支障がでてきます。しかし、周りの人が認知症という病気を正しく理解して、認知症の人や家族を支える手立てを知っていれば、認知症になっても住み慣れた地域で穏やかに暮らしていくことができます。

播磨町認知症高齢者等の見守り・SOSネットワーク事業

認知症などの病気により行方不明になる可能性のある人などを関係機関やネットワーク協力事業所と連携し、日頃から見守りや行方不明になった場合に速やかに発見するために、事前登録を勧めています。



ご希望により、地域包括支援センターに配属された認知症地域支援推進員（専門職）が、一人ひとりの状況に応じた地域での見守り方法を支援することもできます。

▶事前登録申請窓口・問合せ
福祉グループ ☎079 (435) 2361

あんしんキーホルダー

ひとりでの外出に不安がある方の外出時の安心・安全のため、登録番号の入った「あんしんキーホルダー」を交付しています。

キーホルダーとシールを持ち歩いていただくことで、外出中の緊急時に、ご本人の身元が確認でき、迅速にご家族の方へ連絡を行うことができます。



▶問合せ 福祉グループ ☎079 (435) 2361

広げようオレンジリングの輪
認知症サポーターになりませんか？

認知症を正しく理解し、認知症の人と家族を温かく見守る応援者となる「認知症サポーター」を養成しています。現在、町内には、約1,600人のサポーターが誕生しています。



▶講座の内容 認知症の正しい知識と接し方
※講座修了者には、認知症サポーターの証であるオレンジリングが渡されます。
▶受講方法 地域や団体、グループを対象に、講師を派遣します
▶問合せ 播磨町地域包括支援センター ☎079 (435) 1841

ひとりで抱え込まず
まず相談を！

地域包括支援センターは高齢者やそのご家族の相談窓口です。些細なことでもかまいません。認知症のこと、介護や福祉のこと、何でもご相談ください。

認知症地域支援推進員が対応します。
▼問合せ 播磨町地域包括支援センター（認知症相談センター）
☎079 (435) 1841



障がいのある人と一緒にこのまちで暮らしていくための
コミュニケーション支援事業



▲講演会での手話と、スクリーンに映し出している要約筆記の様子

障がいのある人が必要なコミュニケーションを円滑に行うことができるよう、様々な支援事業で誰もが住みやすいまちづくりを目指しています。



広がれ 心のバリアフリー

～ユニバーサル社会を目指して～ 連載④



町内在住 70代男性

妻が認知症と診断されたとき「はぁ、困ったな」と悪いことだけが頭に浮かびました。

しばらくし、妻はメモを書いても忘れる、得意だった料理の手順を間違えるなど、日常生活に支障が出始めました。私は慣れない家事と妻の介護にストレスが溜まり、何度も逃げ出したいと思いました。診断を受けてからの数年は、ただただ辛く悩むだけの日々でした。

そんな折、病院の家族会に参加しました。同じ悩みを持つ仲間に出会ったことで「認知症が人生を決めるのではない。妻の人生は妻のものなんだ」と考え方を少しずつ変えることができるようになりました。

病気になる前に通っていたカラオケ喫茶にまた通い始めました。妻は歌詞が読めなくなっているのに、昔は歌っていた曲もちゃんと歌えず、鼻歌や手拍子をするだけになっています。しかし、周りの仲間は「今日もいい声でてるな～」と一緒に手拍子をしてくれます。何も言わずとも、一人の友人として接してくれるので、妻は以前と変わらず楽しい時間を過ごせています。

私は、妻の認知症を受け入れるのに時間がかかりました。病気を受け入れた今でも、出来ないが増えるのがっかりします。しかし、仲間の輪の中で笑顔で過ごす妻を見ていると、恥ずかしいと思って家や施設に閉じ込めるのではなく、外出させてよかったと思っています。

第4回目は認知症の人の家族の声を掲載しました。

～認知症の人への支援とは～
こころのバリアフリーと「人間杖」が必要です
足の不自由な人は、杖や車いすなどの道具を使って自分の力で動こうとします。駅にはエレベーターの設置などバリアフリー化が進み、乗り降りがしやすくなってきています。また手助けのいるときには援助を頼みます。しかし、認知症の人は自分の障害を補う「杖」の使い方を覚えることができません。「杖」のつもりでメモを書いてもうまく思い出せず、なんのこともわからなくなります。認知症の人への援助には障害を理解し、さりげなく援助できる「人間杖」が必要です。交通機関や店など、まちのあらゆるところに、温かく見守り適切な援助をしてくれる人がいれば外出もでき、自分でやれることもずいぶん増えるでしょう。

引用全国キャラバンメイト連絡協議会「認知症サポーター養成講座標準教材」

①手話通訳者派遣事業

聴覚に障がいのある人や音声または言語機能に障がいのある人に、通訳者などを派遣し、家庭生活並びに社会生活における情報収集やコミュニケーションを円滑に行い、障がいのある人の自立と社会参加の促進を図る事業です。

②要約筆記者派遣事業

中途失聴者及び難聴者が、社会生活上必要不可欠な会合などに出席する場合に要約筆記者を派遣することにより、意思伝達の手段を確保する事業です。

③声の広報

視覚に障がいのある人や、文字が見えづらい人に町広報を録音したCDを郵送しています。
これは、社会福祉協議会の朗読ボランティアが毎月広報紙を読み上げ録音しているもので、町ホームページでも配信しています。



▲防音室で専用の機材を使って声の広報を録音します

支援ボランティア募集

手話奉仕員養成講座や要約筆記ボランティア養成講座、朗読ボランティア、点訳ボランティアに参加してあなたも一緒に支援活動をしてみませんか？
詳しくは、社会福祉協議会までお問い合わせください。

▼問合せ 播磨町社会福祉協議会
☎079 (435) 1712

聴覚障害者用緊急通報FAX

聴覚に障がいのある人、音声や言語に障がいのある人が、火災の通報や救急車が必要な時に、FAXを使って通報することができます。

NET119

音声または言語機能に障がいがあり、119番通報が困難な人のための緊急通報システムです。携帯電話やスマートフォンのWEB機能を利用して文字による緊急通報を行うことができます。



緊急通報FAX、NET119は、どちらも事前登録が必要です。
▼問合せ 福祉グループ
☎079 (435) 2361
FAX 079 (435) 0831